

【10年】

10年が経ちました。

これを見ているみなさんは、どうお過ごしですか？

お仕事の方、お休みの方、卒業を控えてる方、色々でしょうが、元気でお過ごしですか？
昨年の夏、体調を崩し、それが精神的なものだと診断を受けました。「適応障害」でした。

落ち着いた頃、思ったことは2つ

- ・生きててよかった
- ・震災でも壊れなかったのに

今思えば壊れてたんでしょうが、当時13歳の私にはそんな考えもありませんでした。

精神科で幼少期の話をする際、震災の事を話し、泣きました。人に話して泣いたのはいつ以来か、自分でも驚きました。

今は症状も落ち着き、通院もなくなりました。仕事を辞め、大学時代にお世話になっていたバイト先で再雇用してもらい、転職先を探しながら仕事をする感覚を戻しています。

元々身体が強い子ではなかったけれども、改めて元気に毎日生きれる事がどんなに素敵なことか、感じました。

震災から10年。節目の年ですね。

中学校の体育館で、私は部活動をしていました。バドミントン部でした。ウォーミングアップをしていた時、体育館の窓が大きな音で鳴り始めました。強い風でも吹いているのかと思っていると、地面が揺れ始めました。

先輩の指示の元、体育館から出て、渡り廊下で立っている事もままならず、その場にしゃがみ込みました。上から校舎のかけらが落ちてきました。

校庭に行くと、泣いている人もいました。私はラケットを持ったまま、クラス毎に並び、そこで数時間過ごしたと思います。

同級生の父親が先生に「嬉石松原終わった」と言っており、何を言っているんだろうと思っていました。

体育館に避難し、マットの上で過ごしました。夜がふけるにつれ、段々と理解していきました。親が迎えに来て、1人、また1人と帰って行きます。

「父親は仕事だから生きているだろうが、母親は普段地震でもテレビをまず確認する人だからもしかしたらダメかも知れない。足の悪いばあちゃんも、目見えない大叔母さんもだろうな」と、妙に冷静に覚悟していた事を覚えています。

なかなか眠れず、ストーブの前で理科の先生から地震が段々南に言っているのはこういう理由で、と教えてもらいました。難し過ぎて覚えていません。笑

これが私の3月11日です。

次の日、地区一帯の子ども達みんなで帰りました。ワゴンで途中まで行き、そこからは歩きました。避難所となった旧商業高校に行くと、母親が泣きながら私の元に来て、抱きしめてくれました。重いカバンを持ってきて、肩を摩りながら、お腹空いたでしょと、みんなで塩むすびを1つ貰いました。

避難所のすぐ上にある祖母の実家で、しばらく過ごしました。熱が出たので少し寝込み、体調が良くなってからは、家に行き、瓦礫の片付けをしました。みなし仮設が決まり、引っ越しをして、中学2年生がスタートです。

学校ではボランティア活動が始まりました。当時の副校長が言った、私たちは復興世代だという言葉。この言葉を胸に頑張っていました。

震災から6年目、地元を離れ、千葉で初めて3月11日を迎えました。その日は所属していた軽音楽部の卒業ライブでした。14:46その時間は丁度、当時付き合っていた人が弾き語りのライブをやっていました。終わった瞬間、スマホと財布だけ持ち、誰にも言わずにライブハウスを抜け出しました。このまま何もなくて過ぎていく怖さに、地元との温度感の差に耐えられなくなり、カフェで1人で泣きました。

未だにこの日をどう過ごしていいのかわかりません。この10年、"復興世代を胸に"とは言っても、じゃあ何をしたら？と問われると、私なんかは何も出来ていないと思うばかりで、みなし仮設でなぜここにいるんだろうと天井を見ながら虚無感に襲われていたあの頃と、なんら変わらないと思います。

ただ私は、節目だから、3月11日だから、特別な事をしなきゃいけない訳ではないのかなと。だからただ静かに、あの日亡くなられた方々を思うと共に、地元と3県の明日を願おうと思います。

そしてあの日一緒に生き抜いたみんなに。

生きててくれてありがとう。

Miku Maekawa

March 10, 2011 2:45 PM Eastern Standard Time